古着回収PROJECT

(九州産業大学)

TORIUS to BIZ Event Report vol.3

2023年10月1日、トリアスで九州産業大学の商学部の学生たち（Re:youth）と古着回収イベントを実施いたしました。トリアスで古着回収を呼び掛けたところ、約1,300着が集まりました。集めた古着は九州産業大学の学園祭で約300着販売し、その収益金を久山町に寄付いたしました。イベント終了後にRe:youthのリーダーにインタビューいたしました。

―なぜトリアスで衣料の回収イベントを開催しようと思いましたか？

フリーマーケットを開催するにあたって、まず販売する洋服を集める方法について考えました。チームメンバーが各々知人に呼びかけ、洋服を集めましたがフリーマーケットを三日間行えるほどの洋服は集まりませんでした。そこで、集まった衣料品もフリーマーケットで販売しその売上を久山町に寄付させていただくという条件で、多くの人が集まるトリアスでの衣料品回収イベントを行わせていただきたいと提案しました。

―どのようにして学園祭でのフリーマーケットのアイデアが湧きましたか？

当初の活動は「カレッジスウェットづくり」でした。ですが、活動の中でアパレル産業が抱えている環境や労働者への社会問題について学び、洋服を作る責任と向き合いました。それを踏まえて「カレッジスウェットづくり」から「リメイクスウェットづくり」に変更し活動を始めました。

次に資金不足という壁にぶつかりました。私たちの「環境に配慮した服づくり」の活動の知名度アップと資金集めが可能なイベントがないかとチームで話し合った結果、「ものは、使える限り大切に」というモットーも持つ「フリーマーケット」にたどり着きました。さまざまな芸能人やインフルエンサーの影響もあり、古着は若者の間で人気を博しており、一つの文化であると考えます。主なターゲットである学生、若者に、フリーマーケットの活動を通してアパレル業界の現状について知っていただきたいという目標も掲げてフリーマーケットを企画しました。

―どれくらい衣料が集まりましたか？

トリアスの衣料回収イベントでは1299着の洋服が集まりました。

―回収された衣料はどんなものがありましたか?

メンズ、レディース問わず、Tシャツ、パーカー、ジャケット、ダウン、デニム、スラックス、スカート、ワンピース、スポーツウェア、子供服など様々な洋服を寄付していただきました。中には、有名ブランドの洋服もありました。

―お持ちいただいた方とどのようなやりとりがありましたか?

どこでこのイベントを知ったのかのヒアリングを行いました。SNSや子供が保育園などでもらったチラシというお声が多かったです。衣料品回収イベントについて「売るのが面倒で溜めている服がたくさんある」「無料で引き取ってくれて嬉しい」「寄付金につながることが嬉しい」というお声もがありました。また、定期的に洋服を被災地に寄付している方もたくさんの洋服を寄付してくださりました。改めて、洋服をイベントに持ってくるという過程を考えると、かなり労力がいることだと思います。そのような過程を経て、快く洋服を寄付していただいた方々には感謝してもしきれません。本当にありがとうございました。

―回収された衣料から学園祭でのフリーマーケットで販売する衣料はどのようにして選びましたか?

販売する場所が大学内でターゲットが学生としていたので、子供服は全て買取の方に出させていただきました。

洋服の状態が良いものに絞り、開催日が11月であることを踏まえて、ニットやアウターなどの冬物を多く選びました。商品数を増やすという目的で服を選ぶのではなく、本気で欲しいと思える洋服を5人で選びました。また洋服に関して知識のあるメンバーが、古着として価値がある商品を、コアな層に向けて選びました。

―学園祭でのフリーマーケットはどのように進みましたか?

仮に設営することができなかったので初日の設営にはかなり時間がかかりました。初日から多くのお客様に来ていただきましたが、1日を通して課題が見つかりました。まず、パンツが一点しか売れていないこと。この対策として、企画段階で諦めた試着室の設置を行うことにしました。次に、夕方の時間帯にお客様が全く来ないということです。この対策として夕方に30分や1時間のタイムセールを行いました。2日目から初日の反省を踏まえて活動しましたが、試着室を利用しパンツを購入してくださるお客様

がたくさんいらっしゃいました。また、セールの呼びかけに反応してきてくれた人だかりに、さらに反応して他のお客様が集まることもありタイムセールも好評でした。3日間通して、レジ業務の効率化は常に意識していました。売れた商品が把握できないことや売上に誤差が生じることがないように数人でお客様に対応し、一つ一つの作業を正確に行いました。

―どのアイテムが最も人気がありましたか?

カテゴリーで言うとアウター類が人気でした。11月のイベントということもあり冬物を探しているお客様が多かった印象です。また、アウターにしては破格の値段設定だったことも一つの要因だと思います。トリアスで回収した商品、メンバー各々が出品した商品関係なくたくさん購入していただきました。

―このイベントから得られた収益はどれだけあり、町への寄付はどれだけできましたか?

売上総額254,200円でした。トリアスでの衣料回収イベントで寄付していただいた洋服の売上が79,100円、ありがとうサービス様での買取額が2,000円、川野商店様での買取額が120円、川野商店の川野様がご厚意で1000円寄付してくださったので合計で82,200円を寄付することができました。

―久山町役場で寄付金の贈呈式を行った際の感想を教えてください。

西村勝町長様と懇談できるという普段では経験できない貴重な機会を設けて頂きありがとうございました。率直な感想で言うと緊張の一言です。ですが、懇談の中で、今まで知らなかった久山町の取り組みや特徴について知ることが出来ました。いまから50年以上も前の町政により開発規制を敷き人口の流入を防いでいたこと、それが現代に繋がり人口の増加と高齢化率の減少を可能にしていることを知りました。また、このような背景を踏まえて今後の活動を期待しているとのお言葉を頂き、たくさんの方に応援していただいていることを深く実感することが出来ました。この活動を通して久山町について深く知ることができ、今ではトリアスや久山町に愛着を持っています。改めまして、寄付金がいくらになるかも分からない状態で寄付を受け入れてくださった久山町役場様、担当してくださった末継様そして西村勝町長様、本当にありがとうございました。

総評

活動を終えてみて、この活動が実現できたのは、トリアスや日本アップサイクル協会など、多くの人のサポートがあってのことだと深く実感しました。学生で資金力もなく、ノウハウもなく、ただやりたい事とそれに対するやる気があるというだけの私たちでしたが、フリーマーケットの実現までの様々な経験を出来たのは、サポートしてくださった方々のおかげです。本当にありがとうございました。この活動は本当に意義のあるものだったと自負しております。イベントで服を寄付してくださった方、フリーマーケットにて古着を買ってくださった方、川野商店様、久山町役場の方々、皆様から「ありがとう」というお言葉をいただきました。そして是非今後も活動を続けてほしいと背中を押していただけたので、今後、より活動に力を入れていきたいと考えております。活動を通して「学生」というブランドの重要さにも気づきました。大人や企業が発信しても響きにくいようなことがたくさんある中で、私たち学生が声を大にしてアパレル業界の抱えている問題や実情を発信していく必要があると考えました。私たちに大きな影響力はないかもしれませんが、アパレル業界が抱える大きな問題に対し真摯に向きあい、活動を通して多くの人に良い影響を与えられるように努力したいと考えています。「Re:youth」の今後の活動にぜひご期待いただければと思います。

この活動に携わってくださった皆様、心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。